

実施マニュアル

公益財団法人 国際交通安全学会

1.	はじめに-----	0 2
2.	本マニュアルの使い方-----	0 2
3.	対象者-----	0 2
4.	研修の流れ-----	0 2
5.	研修の進め方-----	0 4
	ステップ0 事前準備-----	0 4
	ステップ1 導入-----	0 5
	ステップ2 知識獲得-----	0 8
	ステップ3 グループワークと全体共有-----	0 9
	ステップ4 まとめ-----	1 7
6.	学習プログラムのねらいと教材の構成・指導方法について-----	1 8

1. はじめに

- この「緑内障による健康起因事故防止啓発学習プログラム」は、自覚症状が乏しく、発見が遅れがちな**緑内障に起因する事故を防止するための学習法**として、2024年度、公益財団法人国際交通安全学会の社会貢献プロジェクト（プロジェクトリーダー：谷川武 [順天堂大学教授]、学習プログラム実践メンバー：奥山祐輔 [黒井産業株式会社]、神田直弥 [東北公益文科大学教授]、加藤裕哉 [黒井産業株式会社]）により作成されたものです。
- 学習プログラムの著作権は、公益財団法人国際交通安全学会にあります。資料の譲渡、加工は行わないでください。また、クレジット（タイトル画面の著作、監修）を必ず表示してください。
- この学習プログラムで使用した動画は2020年度、公益財団法人国際交通安全学会の社会貢献プロジェクトにおいて作成されたものを使用しております。
- このプログラムを広く運転者教育の現場で活用いただき、1件でも健康起因による事故の削減に繋がれば幸いです。

2. 本マニュアルの使い方

本マニュアルは、**緑内障による健康起因事故防止啓発学習プログラム**を用いて研修を行う講師向けに作成されています。実際の研修は、本マニュアルの「4. 研修の流れ」に沿って、「5. 研修の進め方」を参照して進めてください。

3. 対象者

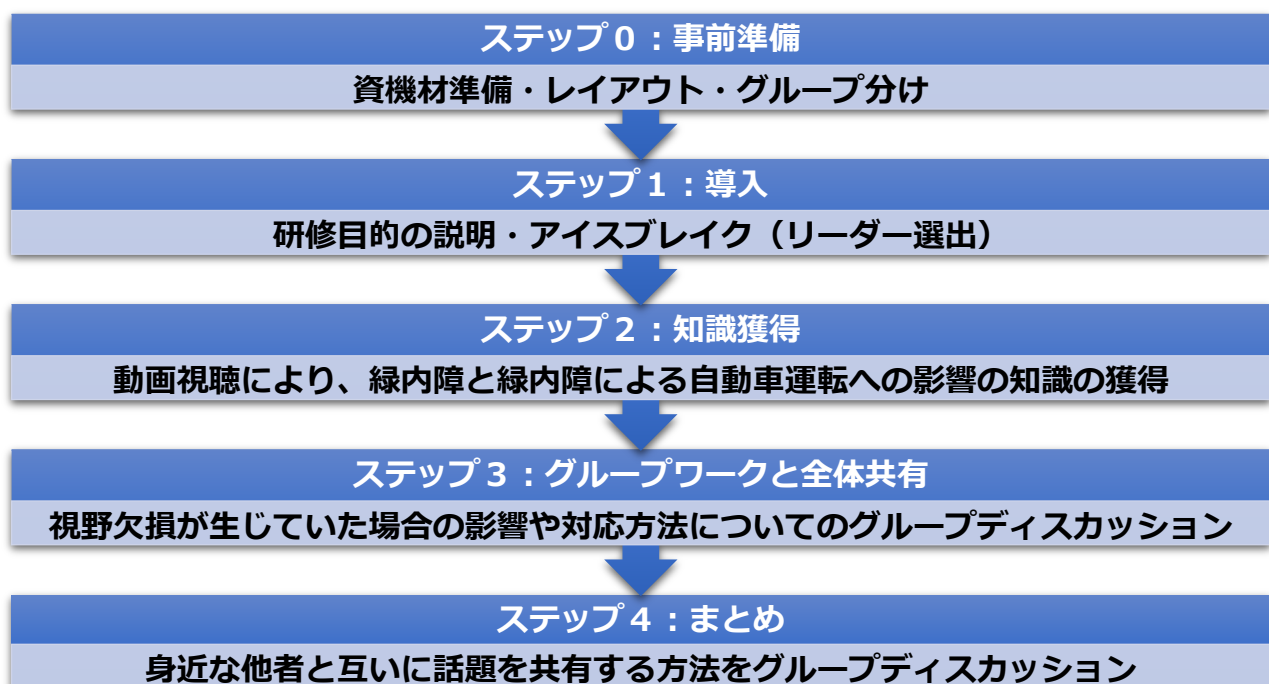
対象は、幅広い年齢層に対して可能です。

（緑内障の発症率が上がるとされる40代くらいの中年層からの年代の運転者に対して、健康面の影響に着目してもらうきっかけとしての学習に適しています。）

1回の開催では、講師1名に対し、4～20名程度の受講者が適当です。

4. 研修の流れ

研修は、次のようなステップで進行します。



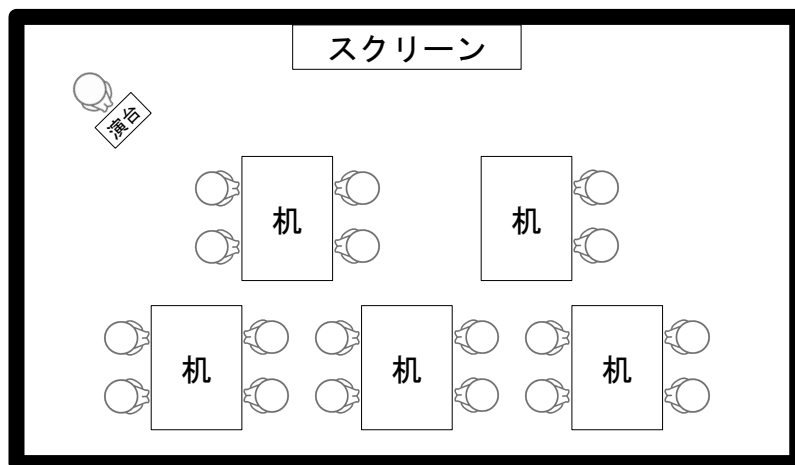
ステップ	時間	内容	作業
1. 導入	2分	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の趣旨と進行の流れについて簡単な説明を行う。 ● このプログラムは一方通行の知識伝達型の学習ではないこと。ディスカッションへの積極的な参加が研修そのものを活性化することを指摘する。 ● グループリーダーを選出する。 ● 研修目的を説明する。研修目的は次の2点である。 <ul style="list-style-type: none"> －緑内障による自動車運転への影響を考えること －緑内障による事故を防止するために自分ができることを見つけ出すこと 	グループリーダーの選出
2. 知識獲得	15分	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑内障と緑内障による自動車運転への影響の理解を深めるため、公益財団法人国際交通安全学会で作成した健康起因事故防止啓発動画、「緑内障と交通事故」を視聴する。 	動画視聴
3. グループワークと全体共有	40分	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑内障の有病率について説明する。 ● 自分自身に視野欠損が生じているという状況をイメージしてもらう。 ● 自分が緑内障になっていたとしたらどのような影響が生じる可能性があるか、そのうえでその状況を補うためにはどのような工夫ができそうかをグループごとに考えていく。 ● グループディスカッションのテーマは次の3点である。 <ul style="list-style-type: none"> －運転行動 －運転計画 －ライフスタイル ● 各テーマを1つずつのセッションとして、運転行動でのグループディスカッションの後、全体共有を行い、その後、運転計画のグループディスカッションの後、全体共有、最後にライフスタイルでのグループディスカッションの後、全体共有といったように、区切って行う。 	グループディスカッション及び全体共有
4. まとめ	3分	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修の最後にまとめとして、身近な人とこの話題を共有し、お互いに関心を高められる環境を作ることを目的とし、その共有方法についてディスカッションを行う。 	グループディスカッション及び全体共有

5. 研修の進め方

ステップ0 事前準備

	準備内容	準備物、または準備内容等	備考
(1)	資機材	① PC ② スクリーン及びプロジェクター、またはモニター	スライド提示のため
(2)	配布物	① 視野欠損イメージ写真 ② テーマ①検討場面写真 ③ ワークシート	ディスカッション前に各グループに配布
(3)	教室レイアウト	① グループディスカッションができるレイアウトへ変更	レイアウト図（参考）参照
(4)	グループ編成	① 参加者を1グループ4、5人程度に編成する	受講者が5名以下の場合グループを編成する必要なし

レイアウト図（参考）



ステップ1 導入

提示資料－1 タイトル表示

緑内障による 健康起因事故防止啓発学習プログラム

著作 公益財団法人 国際交通安全学会

監修 奥山 祐輔(黒井産業株式会社 黒井交通教育センター-KURO-TEG 本部GM)
神田 直弥(東北公益医科大学教授)
加藤 裕哉(黒井産業株式会社 黒井交通教育センター-KURO-TEG 本部)

※著作・監修のクレジット表示を必ずつけてください。

- 自己紹介
- アイスブレイク
- 簡単な内容紹介

受講者との双方向でのコミュニケーションをより進めるため、はじめに自己紹介を行います。

また、話しやすい雰囲気を作り出すため、本題に入る前にアイスブレイク※¹が図れると良いでしょう。

次の発話例を参考に行なってください。

(発話例)

それでは研修をはじめます。本日担当させていただきます〇〇と申します。

よろしくお願いいたします。

【アイスブレイク】

自己紹介等や時事ネタなどで参加者との距離を近づける。

【簡単な内容紹介】

今回は、「緑内障による健康起因事故防止啓発学習プログラム」というものを行なっていきますが、そんなに堅苦しいものではなく、健康に起因する事故について、皆さんに参加していただき、楽しく学習していただきたいと思います。

※1 アイスブレイクとは…初対面の人たちが集まった場合、緊張した固い雰囲気となっていることがあります。そのような雰囲気を壊し、場を和ませることによって緊張を解きほぐしたりリラックスした雰囲気を作り出すことをいいます。

提示資料－2 目次

【～進め方～】	
1. はじめに -研修の目的	2分
2. 緑内障について -動画視聴「緑内障と交通事故」	15分
3. 緑内障と運転について -ワーク内容説明 -グループディスカッション -全体共有	40分
4. まとめ	3分 合計60分

- スケジュールの簡単な説明
- グループリーダーの選出

この教育プログラムは参加者間のディスカッションを中心に進めることとなります。そのディスカッションを通して、「緑内障と運転について」を参加者それぞれが、自分ごととして捉え、学習してもらうことがこの学習プログラムの目標となります。そのためには、積極的に参加していただき、参加者同士が和やかに、本音で話し合える環境を作り出せるかがカギとなります。また、今回の学習は、緑内障による健康起因事故防止といったテーマに絞った内容となっています。この学習テーマがブレないようにディスカッションを進行する必要があります。そのため、グループ内で互いに自己紹介などを行うことで交流を深めながら、グループごとに進行役となるグループリーダーを決めてもらいます。

次の発話例を参考に進めてください。

(発話例)

今日の研修は、(スライドを示しながら)このように、約1時間の研修となっております。今、みなさんにはグループごとに座っていただいております。この形を見て想像されているかと思いますが、今日はこちらからの一方的な講義ではなく、みなさんにグループで取り組んでいただき、その中で、色々な意見を発言していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では、最初のグループワークです。今からみなさんに2分間の時間を作ります。この2分間で行なっていただくことは2つです。まず1つ目は、グループの皆さんでコミュニケーションをとってください。もっと砕けた言い方をすると仲良くなってください。そして、2分間で仲良くなった証に、円満にリーダーを選出してください。よろしいですか。それでは始めてください。

(2分後)

それではこちらに注目をしてください。みなさんコミュニケーションはとれましたか。それでは、リーダーの方は手を挙げてください。リーダーの方を中心に、皆さんで楽しく学習をしていきましょう。

提示資料－3 はじめに 緑内障とは？

【はじめに】

- 緑内障とは・・・？
- 緑内障は車の運転に影響する・・・？



Copyright(C)2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved.

3

➤ 研修でのテーマを説明

この研修の目的として、事故の原因として、健康起因にも目を向けてもらうということが挙げられます。そこで、今回の学習のテーマを説明していきます。次の発話例を参考に進めてください。

(発話例)

それでは始めていきます。今日は、緑内障をテーマに学習をしていきます。みなさんは、緑内障と車の運転への影響は知っていますか。

この緑内障という病気が車の運転にどのように影響を与えるのかを学習していただきたいと思います。そこで、この緑内障が原因となる事故を防止するために自分がどのようなことができるのかを皆さんで考えてもらいたいと思います。

まずは、緑内障と車の運転への影響をわかりやすくまとめた動画がありますので、その動画を見ていただきまして、知っている方は、より知識を深めていただいて、あまり知らなかったという方は、ここで知識を得ていただきたいと思います。

ステップ2 知識獲得（緑内障について）

提示資料－4、5 「緑内障と交通事故」



- 動画を視聴する

緑内障と、自動車運転への影響について、動画を視聴して理解を深めてもらいます。次の発話例を参考に進めてください。

（発話例）

緑内障と自動車の運転について、ドラマ仕立てで約15分間にまとめている動画がありますので、その動画を見ていただきます。こちらを見ていただくと緑内障と車の運転への影響の理解を深めていただけたらと思います。では、ご覧ください。

ステップ3 グループワークと全体共有

提示資料－6、7 緑内障の有病率等

【緑内障と運転について】

今、眼科検診に行こうと思った方？

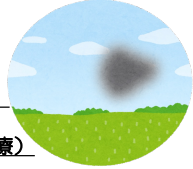


Copyright(C)2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved. 6

【緑内障と運転について】

- 緑内障の患者の割合
 - ・ 40歳以上で20人に1人(5%)
 - ・ 70歳以上の 9人に1人(10.8%)

(内約9割の方は自覚症状もなく、未治療)



緑内障であっても、軽度であれば、医師と相談しながら運転継続は可能です。

Copyright(C)2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved. 7

- 動画を視聴後の自分ごと化の確認
- 緑内障の有病率等の説明

緑内障は自覚症状に乏しく、自分ごととして眼科検診等に足が向くことがなかなか難しい疾患と言えるのかもしれませんが。動画の内容の振り返りとして、緑内障の有病率と無自覚未治療の多さについて説明していきます。次の発話例を参考に進めてください。

(発話例)

今、動画をみていただいて眼科検診に行こうと思った方は手を挙げてみてください。

それでは、今の動画の内容を振り返ってみましょう。

まずは緑内障の有病率ですが、日本緑内障学会の調査によると、40歳以上の20人に1人、70歳以上では9人に1人いると言われているそうです。ですので、今ここにお集まりの方、私も含め1人2人いてもおかしくないということですね(参加人数による)。そして一番注目するのは、約9割の方が、自覚症状がなく治療を実施していないと言われていることです。ですので、自覚症状がなく、未治療の方が多く運転しているということも考えられます。しかし、緑内障であったとしても、軽度であれば、医師と相談をしながら運転の継続は可能ということですよ。

提示資料－ 8、 9 場面設定

【緑内障と運転について】

もしも、**自分が** 緑内障になっていたとしたら、
どのような影響があるでしょう？

- ・その影響を補うための工夫はどんなことがあるでしょう？
- ・その影響を補うために実際になにができるでしょう

今日は自分に視野欠損があると仮想して学習しましょう



Copyright(C)2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved

8

－視野欠損をイメージしてみましょう－



Copyright(C)2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved

9

- ディスカッションの場面設定
- ディスカッション時の視野欠損イメージ写真の提示

※ 各グループに視野欠損イメージ写真、検討場面写真、ワークシートを配布

グループディスカッションの場面設定を行います。この場面設定が定まらなると、ディスカッションの方向がぶれてしまうことにもつながりますので、しっかりと視野欠損の状態を仮想してもらうように進めます。
次の発話例を参考に進めてください。

(発話例)

それでは、これからグループワークをしてもらいます。
まずは、今回のシチュエーション（場面設定）を説明していきます。「もしもみなさんがこのような緑内障の症状をもっていたら」というシチュエーションで進めていきたいと思います。自分が緑内障になっていたら、“どのような影響があるか”、また“それを補うためにはどのような工夫ができるだろう”といったことを今日は自分に視野欠損があるということを仮想して、一緒に学習をしていきたいと思います。
まず、イメージを共有したいと思います。みなさんのところにもお配りをしましたが、（スライド9を提示して）みなさんはこのような視野欠損を持っているというイメージでグループワークをしていただきます。

提示資料－10 ディスカッション内容

【ワーク内容】

グループディスカッション

■ 検討テーマ

① 運転行動

検討場面

「交差点の右折」

② 運転計画

③ ライフスタイル



Copyright©2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved.

10

➤ ディスカッション内容の説明

グループディスカッションの内容を説明します。この後、ひとつずつ詳しく説明をしますので、ここではテンポよく簡単に3つのテーマを紹介します。
次の発話例を参考に進めてください。

(発話例)

今から行うグループワークの内容を説明します。

今日は3つのテーマを用意しております。

まず1つ目は運転行動に関するもの、

2つ目は運転計画に関するもの、

そして3つ目はライフスタイルに関するもの

この3つのテーマで、それぞれグループごとに自分に視野欠損があるということを仮想していろいろな意見を出し合って欲しいと思います。

提示資料－ 1 1、 1 2 検討テーマ①

【グループディスカッション】

検討テーマ① 運転行動
運転行動のうち、視野欠損状態による影響を補う

「安全確認方法」
について

Copyright©2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved

11

【テーマ①検討場面】



Copyright©2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved

12

➤ 視野欠損を補う運転行動として、安全確認方法についてディスカッションします

※ ワークシート①を使用

※ 場面写真は、教育プログラムを実施する地域の、身近な場所の写真を独自で用意していただいて構いません

視野欠損状態による影響を補うための運転行動のうち、目による影響が最も起こる「安全確認方法」について、グループごとにディスカッションを行い、全体での情報共有を行います。時間の目安は、一つのテーマに対し、ディスカッション5分、全体共有5分の計10分です。

次のページの発話例を参考に進めてください。

(発話例)

それでは、テーマ①として安全確認方法についてディスカッションしてもらいたいと思います。

もう一度確認しますが、みなさんは視野欠損を持ってらっしゃる状態を仮想してください。

そして、運転している場面は(スライド12を提示し)このような車や歩行者の通行が多い市街地の交差点を右折しようとしている場面です。お手元に配布しているワークシート①を使用して、このような時にどのような影響があるのか、また視野欠損がある状態でこのような場所を運転する時に、どのように運転行動の工夫をすることで補えるのか、また、その工夫をすることでどのような効果があるのかをみなさんにディスカッションしてもらいたいと思います。先ほどの動画の中にも、影響などは出てきておりましたが、それをさらに皆さんのこれまでの経験を活かしていただいて、さらに掘り下げて、さまざまな影響や工夫を教えていただけるとありがたいです。

それでは、リーダーの方、進行をお願いしますね。時間は5分間でディスカッションをしてもらいたいと思います。それでは始めてください。

(5分後)

5分経ちましたがいかがでしょうか。

それでは、グループの中で話し合った結果をみなさんと共有したいと思います。

どちらかのグループにどのような意見が出たかを発表していただきたいのですが、私たちの意見から発表したいというグループはありますか。

(いずれかのグループを指名し) それでは発表をお願いします。

(発表後)、ありがとうございました。

では、他のグループで、まずは影響について、今発表していただいた意見の他にこのような意見が出たというものがあったら教えてください。

続いて、このような工夫ができるのではないかということに関して、今発表していただいた意見の他にこのような意見が出たものがあれば教えてください。

(いくつか意見を出してもらい) いろいろな意見を聞かせていただいてありがとうございました。

提示資料－ 13、14 検討テーマ②

【グループディスカッション】

検討テーマ② 運転計画
運転行動のうち、視野欠損状態による影響を補う

「運転前にできる工夫」
について

Copyright(C)2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved

13



Copyright(C)2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved

14

▶ 視野欠損を補う運転行動として、運転前にできる工夫についてディスカッションします

※ ワークシート②を使用

視野欠損状態による影響を補うための行動のうち、運転前の計画の段階でできる工夫について、グループごとにディスカッションを行い、全体で情報共有を行います。時間の目安は、一つのテーマに対し、ディスカッション5分、全体共有5分の計10分です。次のページの発話例を参考に進めてください。

(発話例)

それでは、次はテーマ②になります。先ほどは運転行動の中でのいろいろな工夫を話していただきました。今度のテーマは運転前にできる工夫となります。これを先ほどと同じく5分間ディスカッションしてください。

そこで、イメージとしてですが、運転に直接関係なくても構いません。実際の生活の中とかで、なにかこういう工夫をすることによって、緑内障による視野欠損によって起こる運転への影響を補うことができるのではないかということについてみなさんでアイデアを出してください。これは「あんなことはどうだろう」、「こんなことはどうだろう」といった形で、フリーにディスカッションしてもらいたいと思います。

出てきた意見をワークシート②に記入してください。

それではまた5分でディスカッションをしてください。それでは始めてください。

(5分後)

それでは、グループの中で話し合った結果をみなさんで共有したいと思います。

どちらかのグループにどのような意見が出たかを発表していただきたいのですが、私たちの意見から発表したいというグループはありますか。

(いずれかのグループを指名し) それでは発表をお願いします。

(発表後)、ありがとうございました。

では、他のグループで今発表していただいた意見の他にこのような意見が出たというものがあったら教えてください。

(いくつか意見を出してもらい) いろいろな意見を聞かせていただいてありがとうございました。

提示資料－15 検討テーマ③

【グループディスカッション】

検討テーマ③ ライフスタイル

「病院受診のきっかけ」
について

～自分が病院に検査の受診に行ったとし
たらそのきっかけは？～

Copyright©2025 International Association of Traffic and Safety Sciences. All rights reserved.

15

➤ 自分が病院に眼科検診にいったとしたらそのきっかけについてディスカッションします

※ ワークシート③を使用

自分が病院へ眼科検診に行くとしたらどのようなきっかけとなるかを考えてもらうため、自分が眼科検診に行ったとしたらそのきっかけはどのようなことだったのかという目線で自分ごととして、検診受診のきっかけについてグループごとにディスカッションを行い、全体での情報共有を行います。時間の目安は、一つのテーマに対し、ディスカッション5分、全体共有5分の計10分です。

次の発話例を参考に進めてください。

(発話例)

最後のセッションになります。次のテーマは、ライフスタイルに関するものとなります。

このセッションは少し難しいディスカッションとなります。まずは、場面設定を行います。

「みなさんは、眼科検診を受診するために病院に行きました。」

検査に行く方法ではなく、みなさんは病院に眼科検診に行ったと仮想してください。

そのときのきっかけは何があったのか想像してみてください。そして、もうひとつ課題を出します。それをストーリー仕立てにしてください。みなさんで話し合っ、それをリーダーがストーリー化して発表してください。

よろしいですか。時間は今までと同じ5分とします。

ワークシート③を使用して記入してください。

それでは始めてください。

(5分後)

では、みなさんで話し合っいただいたストーリーを発表してください。自分たちからといったグループの方はいらっしゃいますか。

(いずれかのグループを指名し) それでは発表をお願いします。

(発表後) ありがとうございます。

ステップ4 まとめ

提示資料－16 まとめ

【まとめ】

- 本日学習したことを皆さんの身近な人に伝えてもらいたいです
- 誰にどのような方法で伝えることが出来ますか？

- 身近な他者とともに考えてもらう環境を形成することを目的として最後にディスカッションを行う

研修の最後にまとめとして、身近な人とこの話題を共有し、お互いに関心を高められる環境を作ることを目的とし、その共有方法についてディスカッションを行います。次の発話例を参考に進めてください。

(発話例)

最後に、みなさんにお願ひがあります。本日学習したことを、皆さんの身近な方に伝えて広めていただきたいです。それでは、誰にどのような方法で伝えることができるかを2分間でみなさんディスカッションをしてください。では、始めてください。

(2分後)

では、みなさんの話し合った意見を聞かせてください。

(発表後)

ありがとうございました。この緑内障という病気はなかなか自覚が難しい疾患ということが、動画の中でもありました。ですので、自分だけでなく、周りの人にも今日学習した内容を共有することによって、周りの人から検査受診などのきっかけをもらうこともあるのかもしれませんが。ですから、このような内容を共有することによって、みなさんが学習した効果が現れるのではないかと思います。動画は公開されておりますので、そのようなものも活用して、ぜひ、周りの方に今日学習した内容を伝えていただけたらと思います。

それでは、この学習は以上となります。みなさんとみなさんの身近な方とともに、この健康に起因する交通事故を防止するきっかけとなっただけいたら幸いです。ありがとうございました。

6. 学習プログラムのねらいと教材の構成・指導方法について

「緑内障による健康起因事故防止啓発学習プログラム」のねらいと、教材作成及び指導方法に関わる理論的背景について、以下に示します。本学習プログラムについて、さらに理解を深めるため、ご一読いただければと思います。

学習プログラムのねらいと教材の構成

東北公益文科大学 神田直弥

この学習プログラムは、職場などのグループ単位で緑内障について学ぶことにより、参加者全員が正しい知識を習得し、早期発見・早期受診が運転継続に重要であるという共通認識を醸成することを目的としている。また、自覚症状が現れにくい緑内障の早期発見に向けて、視野欠損が疑われる症状に気づいた際に、互いに指摘し合えることもねらいとしている。

その上で、本学習プログラムは次の2点を学習目標として設定している。

1. 緑内障が自動車運転に及ぼす影響を考える
2. 緑内障による交通事故を防止するために、自分でできることを見つけ出す

これらの目標に取り組むことで、緑内障による視野変化があっても、適切な対策を講じることで運転を継続できる可能性があることを理解し、早期発見や早期受診に前向きな気持ちを持てるように支援する。

学習プログラムは2つのパートに分かれている。前半は緑内障について理解を深めるパートであり、後半は緑内障の影響を補う運転を考えるパートである。

前半パートでは、緑内障に関する動画を視聴する。使用する動画は、2020年度に公益財団法人国際交通安全学会の社会貢献プロジェクト（プロジェクト名：「アジア地域における健康起因事故防止のための普及啓発活動の展開」、プロジェクトリーダー：谷川武 [順天堂大学教授]）で作成された健康起因事故防止啓発動画「緑内障と交通事故」である。

この動画では、緑内障の原因や運転への影響、眼科での検査内容や治療方法などをドラマ仕立てで説明している。視聴により、緑内障への理解を深めることができる。また、緑内障は無自覚・未治療のケースが多いことや、早期発見と受診により運転継続が可能であることもメッセージとして伝えている。

動画視聴後には、グループ単位で緑内障の影響を補う運転についてディスカッションを行う。後半パートに動画の内容に基づいたグループワークを設定することで、参加者が緑内障を「自分には関係のないこと」と考えず、動画を真剣に視聴することに繋がると期待される。

グループワークでは、各自が緑内障により同一の箇所に視野欠損を抱えていると仮定し、運転への影響を考える。そして、「右折時の視野欠損の影響を補う安全確認方法」と「運転前にできる工夫（運転計画）」について話し合う。これにより、視野欠損の影響を補うことが可能であることへの理解を深める。

なお、安全確認方法に加えて運転計画について話し合いを求めるのは、運転行動を階層的にとらえる必要があるためである。以下に示す図は、フィンランドの交通心理学者ケスキネンが提唱した階層モデル（ケスキネン、2008）であり、運転に必要な知識と技能を4つの階層で表している。

最下層は、ハンドルやアクセル、ブレーキなどを操作して車両を制御する技能である。第2階層の「交通状況の支配」は、運転状況を把握し、状況に応じた行動を調整するために必要な知識・技能であり、危険予測や他者の行動予測が含まれる。第2階層の危険予測が適切にできれば、事前に減速などの対応

が可能になり、最下層のハンドルやブレーキ操作に自信がなくても事故を回避できる。このように、上位の階層は下位の階層に影響を及ぼし、下位の技能を補う働きを持つ。

第3階層の「運転の目的と文脈」は運転の目的や経路の選択などが該当するが、これらも下位の階層に影響を与える。例えば、目的地にできる限り早く到着したいのか、多少時間がかかっても余裕をもって運転をしたいのかによって、出発時間や走行経路、運転の仕方や運転時に発生する感情は変化する。また、走行しやすい道路を選ぶ、悪天候下や夜間の運転を避けるといった工夫により、危険な状況への対応や危険予測の頻度を減らすことができる。

最上位に位置するのが「人生の目的と生活のスキル」である。早めに出発できるかどうかは、日頃の生活スタイルに左右される。常に時間に余裕がない行動をしている場合、運転時だけ余裕を持つことは難しい。この階層にはライフスタイルや日常における感情コントロールなどが関連する。感情をコントロールする能力が不十分であれば、イライラや怒りが運転に反映される可能性がある。

運転行動を階層的にとらえることで、特定場面での安全確認だけでなく、経路選択や運転する時間帯の工夫、体調管理、余裕を持った運転など、より上位の階層に関連する運転計画を検討できるようになる。

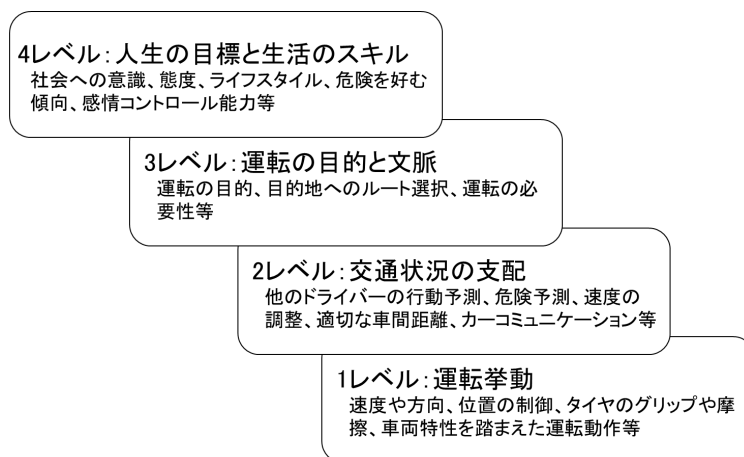


図 運転行動の階層モデル（ケスキネン、2008 に基づき作図）

「右折時の視野欠損の影響を補う安全確認方法」と「運転前にできる工夫（運転計画）」については、グループで話し合った後に発表を行う。ただし、いずれも正解があるわけではないため、発表内容を否定せず、さまざまな考え方が示されたことを肯定的に受け止めることが重要である。

グループワークの3つ目のテーマは、「病院受診のきっかけ」についてストーリー仕立てで考える作業である。前の段階で考えた安全確認方法や運転計画の工夫により緑内障の影響を補う前提として、早期発見による受診が必要である。このため、受診のきっかけをテーマとして設定している。

各グループで考えたストーリーは多様になることが想定されるが、発表を取り上げる際には、「誰が受診のきっかけを作ったのか」という点に注目するとよい。他者からの指摘が受診に繋がるケースに触れた上で、「本日の学習を誰にどのように伝えるか」という最後の問いについて話し合ってもらおう。これにより、学習内容を身近な人と共有することの重要性について気づきを与え、緑内障の早期発見や受診の促進に繋げることを目指している。

健康起因事故防止のための学習におけるコーチングの有効性（指導方法）

黒井産業(株)黒井交通教育センター本部 奥山祐輔

運転行動階層モデルによると、運転の安全性は運転技能の良し悪しによって決定されるのではなく、危険予測、運転計画、感情コントロールといった上位レベルに位置づけられる能力によって左右される。そしてこれらの能力についての正しい自己評価（以下自己評価能力と定義する）が運転行動を左右する要因であり、その教育の必要性が強調された（Keskinen, 2014）。後に運転行動階層モデルをベースに開発された GDE マトリックス（Goal for Drivers Education Matrix）によると、上位階層の自己評価能力を高める学習技法としてコーチングを推奨している（HERMES, 2011）。

コーチングと比較されることの多いティーチングは教師の指示や助言を基本とする教育方法であり学習の初期段階では有効だが、教師・学習者間の知識や技能の伝達が教師からの一方的になりやすい。そして学習者には受動的傾向を生みやすくする。一方、コーチングは学習者との会話を重視し、学習者の「資源」を活かしながら学習者自身が自らの課題に気づき、更に自らが能動的に答えを見出すことを支援する教育方法である（太田, 2018）。

健康起因事故の要因として、運転に影響を与える体調や健康の変化に自覚がないことが問題視されている。学習により自覚を促すには、受動的学習ではなく自己評価能力を高める効果が期待できるコーチングの学習技法が適応する。

コーチングを行ううえでのキーワードは「対等」「責任」「対話」であり、「対等」や「責任」とは受動的ではなく能動的な学習をイメージすると分かりやすい。指導者や講師が受動的に正解を伝えるのではなく学習者が自ら考えて正解を導き出していくことを「対等な学習環境」「自ら考えて、導き出し、学ぶ責任」とするとさらに分かりやすい。そして、そのような学習を実行するには「対話」が必要である。

健康起因事故の事故要因については、知識として得たとしても「他人事」として捉えるケースが多いように感じている。「自分事」にするためには、受動的に行動変容を促されるのではなく、自分の事として受け止めて考えることが必要である。能動的な学習が、本プログラムの目指す運転行動や運転計画、そして医療機関の受診などの行動変容への動機づけとなることを期待して、コーチングを推奨する。

本プログラムでは、コーチング技法を専門的に学んだインストラクターでなくても進行できるようにマニュアルを作成している。学習者（受講者）のリソース（資源）を信じて、コーチングによる学習にトライしてみてください。

※コーチングについてもう少し勉強したい方は「コーチングによる交通教育～メタ認知力の向上を目指して（太田博雄編）ナカニシヤ出版 2018」第 41 回（令和元年度 2019）国際交通安全学会賞著作部門受賞をお勧めします。

参考文献

- ・ HERMES Project 2011 . “www.alles-fuehrerschein.at/HERMES”
- ・ ケスキネン・エスコ 2008. 欧州における運転者教育の最近の傾向－理論から実践へ. IATSS Review, Vol.33, No.1, 123-128
- ・ Keskinen, E. 2014. Education for older drivers in the future. IATSS Research, 38, 14-21
- ・ 太田博雄. 2018. コーチングによる交通安全教育 メタ認知力の向上を目指して. ナカニシヤ出版